【しらがね寮】 ～サンタがやって来た！～

　１２月２１日（金）、一足早くしらがね寮クリスマス会に「一安サンタ」がやってきました？サンタは、利用者が１年間無事に過ごされた事を大変嬉しく思われ、それぞれの利用者に見合ったプレゼントが渡されました。利用者はその心のこもったプレゼントに感激され涙を流されておられました。そんな利用者を背にサンタはまた来年のプレゼントを買出しに出発され、利用者もまた１年後に一安サンタが来る事を楽しみにしている事でしょう（退職していなければ･･･）。

【友愛会銀杏寮】 ～いさぶろう号でGO！～

　銀杏寮では毎年３グループに分かれ旅行を行っています。１１月に今年最後のグループが鹿児島旅行へ行ってきました。
　今回は、列車の旅を楽しもう！を合言葉に、人吉駅より観光特急いさぶろう号に乗ってきました。
途中、真幸駅の幸せの鐘を鳴らしたり車窓より山々の紅葉を堪能したりと列車の旅を楽しみました。2日目は鹿児島水族館いおワールドなどを見物しました。その他にも温泉や薩摩料理など鹿児島を十分に満喫した旅となりました。

【千草寮】 ～盛り上がったボウリング大会～

　去る１１月２０日ボーリング大会が開催され、利用者２７名、職員10名が参加しました。初めての人や久しぶりの人がほとんどで、不安がる人もいましたがいざやってみると大盛況でした。
　ボールが重くなかなか思うようにカッコよく投げることができず、両手で持って転がす方もたくさんいらっしゃいました。ボールを投げたつもりが真横に落としヒヤリとした場面もありましたがその後はみんなで大笑い。ピンを倒すのは難しかったですが、ガータなど物ともせず自分の投げたボールに一喜一憂し、ストライクやスペアがでた時にはみんなでハイタッチし盛り上がりました。
　今回７０歳以上の方も多数参加され、久しぶりのボーリングということもあり少し心配でしたが、みなさんに喜んでもらい、また次回ぜひボーリングをやりたいという声も上がり、楽しいひとときが過ごせたことをうれしく思いました。

熊救協ホームページ　http://kumakyukyo.sakura.ne.jp

熊救協 2013　1月号〔NO. 21〕 編集後記

　昨年４月の人事異動により、救護施設しらがね寮に来てから２年目を迎えました。ようやく仕事にも慣れてきて、日々の業務・利用者のお世話・年間行事等、慌ただしくも充実した毎日を送っています。まだまだ行き届かない点が多々あるとは思いますが、今後も初心を忘れることなく、「目指せ！頼れる介護職員！」を胸に頑張っていきたいと思いますので、これからも皆様のご指導をよろしくお願いします！

《熊救協調研委員：小田　敏広（しらがね寮）》

編集：熊本県救護施設協議会
調査･研究委員会
発行：熊本県救護施設協議会

事務局：〒861-2401　熊本県阿蘇郡西原村鳥子3072
真和館　Tel（096)279－1121
Fax(096)279－1122

2013年　1月号〔NO. 21〕

熊本県救護施設協議会

熊救協

http://kumakyukyo.sakura.ne.jp

ごあいさつ

熊本県救護施設協議会副会長　永山　恵一

　新年明けましておめでとうございます。
　皆様には希望に輝く新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。
　また、日頃から熊救協の事業推進につきましては、ご指導ご協力をいただき感謝申し上げます。
　さて、正月気分もつかの間、この時期になると今年度事業の総仕上げと来年度に向かっての事業計画、予算編成等大変忙しい時期となりました。
　福祉の動向は保護基準の見直しなどにより施設運営も厳しさを増してくるものと考えられます。
　そのような中で、全救協で推進されている居宅生活訓練事業、保護施設通所事業などの地域生活移行支援については、救護施設の所在地域の環境、立地条件によっては、なかなか取り組めないのが現状であります。
　そこで、都市部で出来ること、郡部で出来ることを分けて取り組めばよいのではないかと思っています。
　当施設が実施している「食の自立支援配食サービス事業」は、開始してから２６年になります。農山魚村の高齢化率は３７.３％と高く、１人、２人暮らしの高齢者世帯が多く、車にも乗れない、近くに買い物する場もない等、高齢者にとってはこの配食サービス事業は栄養面でも、安否確認でも大きな役割を果たしています。
　このように施設の機能を活かして地域に貢献できるのも郡部だからこそ出来るものであります。
　また、生活支援戦略に基づき「包括的」かつ「伴走型」の支援を実施する総合相談支援センター（仮称）については、どのような地域単位で設置されるか定かではありませんが、高齢化の進んだ地域こそ「伴走型」支援が不可欠であり、今後の動向に注視すべきであると思います。
　これからは、施設利用者のみでなく地域へ救護施設のノウハウを提供することにより救護施設の存在意義を示していくことが期待されております。
　諸問題を抱えつつ新年を迎えておりますが、救護施設職員の皆様には、この一年がすばらしい年になりますようにお祈りしますと共に、ますますのご活躍とご健勝をご祈念申し上げまして新年のご挨拶と致します。

内部研修会報告　しらがね寮編

　しらがね寮では、毎年施設内研修として施設全職員を対象に消防署職員による救急講習及び、保健所より講師を招き衛生関係（感染症の感染経路・予防・対処法等）の研修を実施しております。救急講習では緊急時における心肺蘇生法やＡＥＤの操作方法等を学びました。
当施設においても利用者の高齢化が進んでいる状況で、毎年行っておりますこの２つの研修はとても重要視しており、特に救急講習においては毎回緊急時を想定しながら集中して取り組んでおります。今後も施設内でのあらゆる事故防止及び利用者の生命を守る為に、この２つの研修は継続して取り組んでいきたいと思います。

第36回九州地区救護施設職員研究大会
～大会リポート～

去る6月２７日～２８日、熊本市のメルパルク熊本にて第３６回九州地区救護施設職員研究大会が開催されました。九州各県の救護施設や福祉事務所より１１２名の参加がありました。

今大会は「拡大する救護施設機能と期待に応えるために」というメインテーマのもと４分科会に分かれ研究協議を行いました。第１分科会は「利用者主体の個別支援計画への取り組み」、第２分科会は「地域生活支援への取り組み」、第３分科会は「サービスの質の向上に向けた取り組み」、第４分科会は「利用者のＱＯＬ（生活の質）を高める支援への取り組み」という各分科会のテーマについて、それぞれ活発な研究協議が行われました。九州地区救護施設協議会では、平成１９年度より「救護施設機能強化に向けての指針」を踏まえたセーフティネット機能と地域生活移行支援機能のさらなる強化に向けて取り組んでいるところであり、社会情勢の変化とともに多様化しているニーズにどのように対応するべきか、また私たちが今後どのような役割をはたす必要があるのか学び、知識を共有することが出来たのではないかと思います。

また、全国救護施設協議会副会長木間幸生氏より中央情勢説明をいただき、社会保障・税一体改革および生活保護をめぐる動向について最新の情報を学ぶことが出来ました。

記念講演では、熊本県経営者協議会会長小笠原嘉祐氏より「障がい概念の変遷とノーマリゼーション」について、毎日新聞論説委員野沢和弘氏より「障害者虐待防止法の基本理解」について、それぞれの演題について講演いただき大会に花を添えていただきました。さらにはサプライズゲストのくまモン登場もあり盛会のうちに終えることが出来ました。

大会詳細につきましては、九救協ホームページに大会報告書が掲載されておりますので、そちらをご覧下さい。

九州地区救護施設協議会ホームページ

http://kyukyugo.sakura.ne.jp/

各施設トピックス

【天草園】 ～小学校交流事業～ 介護を体験しよう

毎年、地元の小学校と年間を通して色々な交流を図っています。今年は、５月～１１月までの期間に月１回のペースで６回の交流を計画、内容は、節句行事や七夕飾り作り・ゲーム等を一緒に楽しんだり、レクリエーション大会への参加や、大掃除を一緒に行ったりと、学年に合わせ多岐にわたった内容となっています。

今回は、１０月に３・４年生と交流した「介護を体験しよう」について紹介します。始めに副施設長より、天草園には介護を必要とする人がたくさん利用されており、色々な介護支援を行っていること等説明。又、施設以外の家庭や社会においても介護を必要とする場合が多くあるので、基本的な介護の知識を学び、実際に体験することにより、介護の知識を深めて社会の役にたって欲しいとの話がありました。次に介護支援員が、介護者・要介護者となり、実演を兼ねた移動介助(椅子⇔車椅子)や更衣介助について説明、小学生も実践体験をしながら指導を受け、基本的な簡単な理論と実践を経験し、介護をしっかりイメージすることが出来たと思われます。その後実際に、職員と一緒に利用者の移動援助や、居室にてお茶のお世話や会話を楽しみました。4年生のある女の子は「大人になったら絶対天草園で働きたい・・・」ととても強い意欲を見せる等、子ども達の将来における職業選択の情報としても、寄与出来たのではないかと思われます。

【菊池園】 ～餅つき慰問～

お正月を前に、毎年恒例の地元青年団による餅つき慰問が行われました。寒い中、朝早くから青年団の方々にお越しいただき、利用者と一緒に餅つきをしました。杵で餅をつく人、餅をちぎる人、餅を丸める人とそれぞれの役割に分かれて行いました。中には餅をちぎるのに手慣れた年配の利用者も！

みなさんこの日をとても楽しみにしており、今年も良いお正月を迎えることができました。

【真利館】 ～秋のスポーツ大会！入所者と職員の卓球バレー交流会～

秋のスポーツ大会の最後に、「入所者と職員の卓球バレー交流会」を開催しました。

皆さまは、日々のクラブ活動で練習をされているため大変上達されていました。職員もみな本気で取り組みましたがチームワークと勢いに圧倒されてしまい、その結果、入所者が勝利しました。白熱した試合となり、しばらく興奮と歓喜の声が鳴りやまない時を過ごしました。
試合に参戦していない方からも多くの声が上がり、活気と刺激のある卓球バレー交流会となりました。

【野坂の浦荘】 ～運動会盛会に終える～

去る10月に運動会が行われました。年間行事の中でも最も大きな行事の一つです。入所者の平均年齢が69歳の現在、運動会の種目の内容も、誰もが気軽に参加できるよう工夫を凝らしています。今年は昔懐かしい缶けりや荷物運び等、保育園児からご高齢の方まで一緒になって楽しみました。また、職員によるダンスも、日頃のチームワークを発揮し、運動会に華を添え、参加頂いた皆さんに好評でした。入所者のご家族、地域の皆さん方、大勢の参加の中、皆で一つの行事を作り上げる事が出来ました。